

川口市剣道連盟 —不動心—

会長：小倉 順二郎 事務局長：和泉 征二



1. 沿革 川口市は「鋳物の街」として、その歴史を徳川時代まで遡ると、川口市の剣道の歴史も随分と古い歴史を持っており、長年に渡り幾多の先達の血と汗による尊い献身的な努力と精進が積み重ねられて今日の盛況と繁栄があります。

昭和28年（1953）川口市剣道連盟が発足。浜田治雄氏を会長に、副会長に浅倉一二三氏、岡芹邦男氏、楯政知氏を始め多くの指導者の下、今日の川口市剣道連盟の基礎が築かれた。

昭和44年（1969）念願の川口市立体育武道センターが竣工落成となり、磐石の体制が出来たのを機に、川口市剣道連盟事務局を設立し、埼玉県剣道連盟の傘下に入り、同時に武道館少年剣道クラブを設立、翌々昭和46年（1971）に少年剣道大会、昭和58年（1983）に中学校剣道大会・平成元年（1989）より、高校剣道大会を連盟行事として実施し、青少年の育成強化に力を注いでいる。

平成23年（2011）、川口市・鳩ヶ谷市が合併し、更に大きな連盟組織となる。

2. 組織及び事業 現在19団体が加盟、一般・大学（600名）、高校生（150名）、中学生（520名）、小学生（350名）と区分され、主な年間行事は、7月少年少女剣道スポーツ大会・市民選手権大会、10月市民体育祭、11月級審査会・川口市審判講習会、12月小学生剣道選手権大会、1月高等学校剣道大会、2月中学校剣道大会、3月少年剣道大会を行っている。また、年間4回川口市全体の強化稽古会を実施している。

3. 今後の取り組み 平成22・25年埼玉県剣道大会（小学生の部）優勝を始め、優勝11回の実績を持つ。市内中学校は、県大会優勝男子団体18回、女子団体6回と活躍している。また、県立川口高校、市立高校の川口・川口総合も関東・全国大会・国体等、輝かしい成果を残している。『剣道は剣の理法の修練に依る人間形成の道である』という理念のもとに、川口で生まれ川口で育った選手が地元に戻り、後輩の指導・育成に尽力できるよう、さらには剣道を通して平和と社会に貢献する人材育成に心掛け、これからも小・中・高の一層の育成強化を連盟あげて取り組んでいきたい。